

解答範囲は、解答番号 から までです。

(二) 左の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【引用部分は削除しています】

←
←
←

【引用部分は削除しています】

←
←
←

(Jean Lin) 『帰属の美学——板前の国籍は寿司の味を変えるか』による

(注) ○帝国主義的⇨ここでは、自分たちを正義として、他者を侵略し支配しようとする態度であること。の意。

○フュージョン⇨融合。 ○トルテイヤ⇨トウモロコシの粉や小麦粉から作られる薄焼きパン。 ○ヴィーガン

⇨動物を搾取・虐待することに反対し、動物性の食品や動物由来の軍製品などを拒否する人々。 ○ラップ⇨食材

をトルテイヤなどで巻いた食品。 ○ヘルトケ⇨リサ・ヘルトケ。アメリカの哲学者。料理の哲学などを研究。

一九六〇)。 ○ストロール⇨マシユール・ストロール。アメリカの哲学者・美学者。一九八一)。 ○オリエンタ

リズム⇨西洋における東洋に対する見方の一つ。東洋にロマンや異国情緒を見出す傾向が強い。 ○ジャポニスム

⇨ヨーロッパで流行した日本趣味。一般に十九世紀後半のヨーロッパにおける浮世絵などをはじめとした日本文化

への関心の高まりを指す。○プラトニック⇨古代ギリシアの哲学者である「プラトンの思想のような」を意味し、ここでは精神的かつ理念的に純粹であることを指している。○多孔性⇨孔は貫通した穴のこと。多孔性は多数の微細な孔があるために、外部のものを吸収しやすい性質をいう。○琥珀⇨天然樹脂の化石。

問一 傍線部⑦～⑨にあたる漢字を、次の各群のうちから一つずつ選びなさい。

- 解答番号 1 ～ 4
- | | | | |
|--------|-----|---------|-----|
| ⑦ トウヨウ | ① 等 | ① ゾウキョウ | ① 像 |
| ② 東 | ② 増 | ② 造 | ② 贈 |
| ③ 登 | ③ 盗 | ③ 贈 | ③ 令 |
| ④ 祥 | ④ 登 | ④ 令 | ④ 例 |

- ⑧ ハッシュヨウ
- | | | |
|-----|---------|-----|
| ① 生 | ① ショウレイ | ① 例 |
| ② 症 | ② 令 | ② 励 |
| ③ 省 | ③ 令 | ③ 励 |
| ④ 祥 | ④ 令 | ④ 励 |
- ⑨ ショウレイ
- | | | |
|-----|-----|-----|
| ① 例 | ① 令 | ① 励 |
| ② 令 | ② 励 | ② 祥 |
| ③ 令 | ③ 励 | ③ 祥 |
| ④ 例 | ④ 励 | ④ 祥 |

問二 傍線部①「真正性は、近現代においてとりわけ価値があるものとして認識されており」とありますが、その理由として明らかに合致しないものを一つ選びなさい。

解答番号 5

- 近代以前の社会では手作りの製品が珍しいものではなかったが、近現代社会においては大量生産の製品があふれており、手間暇をかけた製品の希少性が高まったため。
- デジタル化が進んだ社会において、様々なものが手軽に複製できるようになり、複製されていないものや複製できないことそれ自体が価値を有するようになったため。
- 国境を越えて製品が流通し、どこにいても同じようなものが買えるがゆえに、人々が伝統や文化に純粹性を求め、流通しにくいものに価値を認めるようになったため。
- 国際化が進んだ時代において、人々はそれまで手に取ったことがなかった手間暇をかけた製品に出会い、そこで本物の使いやすさや良さを学んでいったため。

問三 空欄 A ～ C を補うのに最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

- 解答番号 6
- | | | |
|--------|------------|-------|
| ① A 意図 | B マジョリテイ文化 | C 敵対性 |
| ② A 背景 | B 異文化 | C 統合 |
| ③ A 出自 | B マイノリティ文化 | C 不平等 |
| ④ A 活動 | B 多文化 | C 関係 |

問四 傍線部②「料理は、文化的な流動性が高く見える一方で、実際には真正性を重視される傾向が非常に強いカテゴリでもある」とありますが、その説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 7

- 料理は、どこで食べても、材料や調理法が変わらなければ、味は同じであるにもかかわらず、わざわざ現地に行って食べることが過度に重視される傾向にあるということ。
- 料理は、文化的な交流や流行のなかで変化する一方で、料理人の出身地が問われたり、伝統との結びつきが重視されたりするなど、変化が否定的に捉えられやすいということ。
- 料理は、高い創造性が要求されるものであり、文化横断的な創作料理が称賛される一方で、味がいまひとつであれば、三ツ星シェフの料理であっても非難されうること。
- 料理は、伝統や歴史と密接に結びついているように思われるにもかかわらず、ヴィーガン向けのピリヤニのような新規な料理であっても、SNSの影響で本物と認められるということ。

問五 傍線部③「このような場合に求められている真正性」とありますが、その説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 8

- 地元の人を食べるような多彩な料理ではなく、個々に独立し、パッケージ化された商品であること。
- 個々の文化における日常的な料理ではなく、その文化を代表するような有名な伝統料理であること。
- 訓練を受けた者のみに可能となる特定の調理技法によってつくられた(二品目の料理)であること。
- 確かな知見に基づいて認識できるような、その料理の本質とされる特定の性質を有していること。

問六 傍線部④「料理の『複製可能性論(replicability theory)』の説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 9

- 料理の真正性は、その料理が複製できるかどうかであり、カリフォルニア・ロールのように多様な形で複製できる料理こそが真正であるとする理論。
- 料理の本質は、味や見た目などの特定の基準にあり、それらの基準にそっていれば、他が異なっていたとしても真正な料理を複製できるとする理論。
- 料理の真正性は、誰がどこでその複製を行うかによって変わってしまう曖昧なものであるがゆえに、真正な料理は稀にしか複製できないとする理論。
- 料理の本質は、誰とどのような場でいかに食べるかという、その一回性にあり、それゆえその都度の料理が他に存在しない真正な料理であるとする理論。

問七 空欄 X と Y には本文中の言葉が入ります。最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

- 解答番号 10
- | | |
|----------------|---------|
| ① X (他者)の食べ物 | Y 存在の認識 |
| ② X 料理観光者 | Y 存在の認識 |
| ③ X 出会ったことのない味 | Y (他者) |
| ④ X 暗黙の概念的連鎖 | Y (他者) |

問八 傍線部⑤「文化を琥珀の中に凍結する」とありますが、その説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 11

- ① 料理という文化はカテゴリーに括れるような境界を持たず、不適切な評価に晒されやすいがゆえに、高度な理論によってその都度境界を定める必要があるということ。
- ② 料理という文化は多様な個別の料理の雑多な集まりであり、本来的に曖昧であるにもかかわらず、そこに無理やり不変の本質を見出そうとすること。
- ③ 料理という文化は固定した本質を持たず、伝統的な味もすぐに失われてしまうがゆえに、様々な人々が苦勞して伝統の良さを保とうとしてきたということ。
- ④ 料理という文化は他の伝統文化と比べると固定的であるにもかかわらず、文化それ自体を流動的なものとみなし、料理という文化の本質を見逃してきたということ。

問九 この文章の内容に合致するものを一つ選びなさい。

解答番号 12

- ① 文化の真正性を求めることは、文化を固定したものと捉える文化本質主義に陥ったり、製作者の意図に反してマイノリティ文化の肩書きに過剰に注目したりするといった問題を引き起こす可能性がある。
- ② イギリスの小売業者が独自の料理をピリヤニと表記したり、スコットランドの出身のシェフがアジア料理店を出店したりすることは、文化本質主義的であるがゆえに、道徳的にも不適切な行為である。
- ③ ヘルトケは、異文化の料理に真正性を求めることが、自分たちと他者の差異を明確にするだけでなく、他者の本質を曖昧化し蔑ろにするという点で、帝国主義的な側面を持つものであると批判した。
- ④ ヘルトケは、トムセンとともにストロールの複製可能性論を洗練させ、料理の真正性を定義するとともに、料理の真正性を損なう行為を、他者を軽視する文化本質主義であるとして批判した。

(二) 左の文章は、「翁」(松尾芭蕉)の弟子である「わたし」(河合曾良)の視点から書かれた小説の一場面です。これを読んで後の問いに答えなさい。

【引用部分は削除しています】

←
←
←

英語
日本史
世界史
政治・経済
数(文系型)学
数(理系型)学
物理
化学
生物
正解・正解例
国語

←
←
←

【引用部分は削除しています】

←
←
←

【引用部分は削除しています】

(注) ○蕉門 松尾芭蕉(一六四四―一六九四)を師とした、また芭蕉の俳諧に共鳴・賛同した俳人の一派。○西鶴 井原西鶴。俳諧師・浮世草子作者。一六四二?―一六九三。○西吟 水田西吟。西鶴の門人。生年不明。一七〇九。○談林 談林派。西山宗因を中心とした俳諧の一派。西鶴、西吟はその代表的俳人。○其角殿 宝井其角。芭蕉の門人。一六六一―一七〇七。○袋草紙 平安時代後期に藤原清輔が著した歌論書。○芭蕉庵 芭蕉が住居とした草庵。ここは江戸深川六間堀(現在の東京都江東区)にあったものを指す。○定家の卿 鎌倉時代前期の代表的歌人・歌学者・古典文学研究者である藤原定家(一一六二―一二四一)を指す。○杉風殿 杉山杉風。芭蕉の門人。一六四七―一七三三。○歌仙を巻く 歌仙は五七五の長句と七七の短句を交互に詠み連ねる「連句」を三十六句続けたもので、「巻く」は連句を詠むことをいう。○造化 天地自然の一切万物を創造し育てる存在。造物主。○頓悟 長い修行を経ずして一気に悟りをひらくこと。

(関口尚『芭蕉はがまんできない おくのほそ道随行記』による)

問一 傍線部①「蕉門の看板」という表現に用いられている比喩の種類として最も適当なものを一つ選びなさい。

- 解答番号 13
- ① 直喩 ② 換喩 ③ 隠喩 ④ 擬人法

問二 二重傍線部 a「追従」、b「野暮」の意味として最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

- 解答番号 14
- ① a 心から賛同の意を示すこと b 理屈っぽいこと
 ② a 気に入られるような言動をすること b 洗練されていないこと
 ③ a 内心では軽く馬鹿にしていること b まわりくどいこと
 ④ a 理解しているふりをすること b 無駄があること

問三 空欄 A と B を補うのに最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

- 解答番号 15
- ① A 固唾を飲む B 衆口一致する
 ② A 耳目を集める B 人口に膾炙する
 ③ A 口端に上る B 快哉を叫ぶ
 ④ A 刮目に値する B 肝胆相照らす

問四 傍線部②「わたしは目を伏せ、ほかの門弟の背中に隠れた」とありますが、この時の「わたし」を説明したものと最も適当なものを一つ選びなさい。

- 解答番号 16
- ① 「わたし」は翁の数多い門弟のうち一人に過ぎず、彼らの集う中で進んで見解を述べられるような自信や気概を持っていない。
 ② 「わたし」はまだ翁と門弟たちの会話をその背後でただ黙って聞くばかりであって、彼らのやり取りに加わるほどの見識がない。
 ③ 「わたし」は門弟の数に入れられてはいるものの、また翁への発言は許されておらず、奥に控えていることを余儀なくされている。
 ④ 「わたし」は他の門弟たちからは一歩引いたところにおり、翁に対する彼らの一様な態度に意見を述べる気も失せてしまっている。

問五 傍線部③「ぼちゃん、ぼちゃん、と……同時にその音もやんだ」とありますが、この描写によって暗示されている状況として最も適当なものを一つ選びなさい。

- 解答番号 17
- ① 翁と門弟たちとの会話は古い和歌由来の伝統や正統性に凝り固まったものであり、それらの印象と強く結びついている蛙の動きの停止が、翁に新しい視点を与えたことを示している。
 ② 水草が繁茂して水も濁んだ古池に、翁や門弟たちの停滞した心境が表されており、そこへ聞こえてきた蛙の飛びこむ水音が、文字通りこの場に一石を投じた形になることを示している。
 ③ 翁に否定されることを恐れて沈黙するしかなくなった門弟たちの消えた言葉が、濁んだ古池に飛びこんで見えなくなる蛙の姿に投影されており、この場の沈みこんだ雰囲気を示している。
 ④ 蛙が池に飛びこむ音の停止は、新味ある案を思いつくことができない門弟たちの思考の行き詰まりを表しており、音の途絶えた一瞬の静寂が、翁の発想が転換するその瞬間を示している。

問六 傍線部④「わたしは混乱していた」とありますが、その理由に明らかに当てはまらないものを一つ選びなさい。

- 解答番号 18
- ① 句の言葉やその組み合わせは平易であるのに、それまでにはなかった感覚を表現しようとしたのであったから。
 ② 文字数の限られた俳諧の中に同じ要素をくり返して用いているが、みごとに一句として成立していたから。
 ③ 古池に蛙が飛びこむという、ただそれだけの表現で、故事の世界の蛙が現実の蛙が存在として感じられたから。
 ④ こんなにも言葉の据わりがよく、びたりと収まった十七文字の羅列は見ても聞いたこともなかったから。

問七 傍線部⑤「自他の境を失わせる仕組み」に明らかに当てはまらないものを一つ選びなさい。

- 解答番号 19
- ① 「古」という文字の不思議な親近感と自らの過去を振り返らせる作用
 ② 客観であるはずのものに主観を許す「飛びこむ」という言葉の動き
 ③ 受け取り手に特定の池を思い起こさせない「名もなき」古池の自由さ
 ④ 他者であると同時に句を受け取る者と視覚を共有する「蛙」の存在

問八 この文章の内容に合致するものを一つ選びなさい。

- 解答番号 20
- ① 「古池や蛙飛びこむ水のおと」の句は、先に思いついていた「蛙飛びこむ水のおと」という下二句を、別案として世に出した(古池や蛙飛んだる水のおと)の下二句と差し替える形で完成した。
 ② 其角は、翁の門弟たちの中でも特に和歌やさまざまな故事についての知識を豊富に備えており、それを句作に生かす才能によって、一門の人々や翁からも一目置かれる人物であった。
 ③ 翁は、和歌由来の伝統や正統性といった「常なるもの」から逸脱し、自己からも他者からも解き放たれたその先に、理想の俳諧が存在すると考えており、それを追い求めていた。
 ④ 翁にとって「古池や蛙飛びこむ水のおと」の句は、自分でも理解できないまま偶発的に成立したものであり、句の解釈はすべて人にゆだねて、その是非について言及することはなかった。

〔三〕左の文章は、鎌倉時代に成立したと考えられている歴史物語「六代勝事記」の一節です。承久の乱で鎌倉幕府に敗れた後鳥羽院(太上天皇)と順徳院(新院)の父子は、それぞれ隠岐国(現在の島根県の隠岐)と佐渡国(現在の新潟県の佐渡島)に流されることになりました。これを読んで、後の問いに答えなさい。

七月六日、太上天皇を鳥羽殿に移したてまつるに、避りあへぬえびすの軍、旗を翻し、道をざめり。大宮中納言・左宰相中將・左衛門尉能茂ばかりにて、四辻殿を出でさせたまふ。御心中おしはかるべし。御覧よそなる七条殿、①はるかにかへりみさせたまふ。紫宸殿の軒端も隠れぬれば、離宮殿深くして、洞庭にはただ兵のみあり。

同日、御出家。大軍囲みて、鳥羽殿も立たねば、錦の帳を隔てざりし三千のたくひも、この世の御姿を見たまつらず。玉のみぎりに侍りし臣妾も、柔和の御声を聞かぬ。信実召して、御姿を写させて御覽するにも、短からぬ御命のみぞ、うらめしく思し召さる。七条院、今はかざりの御さごりにたへず、御幸なりたるに、武士が寒き申すを、とくくなだめて入らせたまひたれども、もろとも泣くよりほかの御ことばなし。御目たがひに暗れば、女房の肩に手をかけて、足にまかせて、やがて立ち返らせたまひにけり。さてしも世の中にはながらへけるならむ②とぞ、心ある人申し合ひたりし。

同十三日に隠岐国へ移したてまつるに、武士御興に立ち添ひて、先途をすすめ申せり。傾く月の惜しかるべき御なごりなれば、さへぎりに見たてまつりし人々、朝思にはこりしも朝思にもれしも、涙を落とさずといふことなし。(中略)山重なり江重なる道を経て、出雲国に大浜といふ所に着かせたまひぬれば、船人たよりの風をまつの下臥し、夜來経て、ならばぬ床の露けさ、なほ行く末も深きうらみを取りあへざりし。鳥羽殿の御おまかげのかざりなど、あはれをつくして、

たちねの消えやうらみ露の身を風より先いかにで問はせしとて、波風の声につけても、ひまなき御心のうちは、ただ思し召しやらせらるべしとて、知るらめや憂き瀬をみはる浦千鳥泣く泣くしほる袖のけしきを、かくしつ、御船に召して、武士都へ帰るに、城南の行宮より海辺の宿まで、なれさせおはしめぬるなごりなど仰せらるるに、えびすの猛きしも、なかなか情けありければ、③別れの涙おさへがたし。雲の波、煙の波をしのごて、はるかの隠岐に渡り着かせたまひぬ。(中略)

同七月二十日、新院を佐渡国へ移したてまつる。女房二人、殿上人二人ばかりにて、夜をこめて都を出でさせたまふ。(中略)花山院少将もわづらふことありて帰りぬ。日数は積もれども、都のおまかげは御身に添へり。越後国までは着かせたまひぬるを、兵衛佐範経さへ病重くて、この浦にしづみぬれば、行く末あやふき船の道をしも思はせたまふにも、御心のみこそがれける。渡り着かせたまひぬれば、いつしか南にかけける初雁もうらやましく、北より吹く風の伝も、御文付けさせたまふ。御興などかきたりし賤の男ども、ふるさとへ帰るを召し寄せて、かかる憂き瀬を渡る鳥なれば、いかに帰る事あらむなど、仰せられもはてず、落つる御涙は、まことにあはれにぞ覚えける。

〔六代勝事記〕による

(注)

- 鳥羽殿 現在の京都市南部の上鳥羽・下鳥羽にあった離宮。後出の「城南の行宮」もこれと同じ。
○避りあへぬえびすの軍 避けることができないほど多くの東国武士の軍勢。
○大宮中納言・左宰相中將・左衛門尉能茂 西園寺実氏・藤原信成・藤原能茂。いずれも後鳥羽院の近臣。
○四辻殿 後鳥羽院の寵妃修明院の御所。
○御覧 天皇・上皇が御覧になること。
○七条殿 後鳥羽院の母七条院の御所。
○洞庭 鳥羽殿の庭。
○錦の帳を隔てざりし三千のたくひ 後鳥羽院を身近でお世話した女房たち。
○玉のみぎりに侍りし臣妾 後鳥羽院の臣下たち。
○信実 藤原信実。鎌倉時代の貴族。絵の名人。
○出雲国に大浜といふ所 現在の島根県松江市美保岡町の辺り。
○船人たよりの風をまつの下臥し 船人が順風を待つ間、松の木の下で野宿して。
○花山院少将 藤原宣経。鎌倉時代の貴族。
○越後国 現在の、佐渡島を除いた新潟県全域。
○兵衛佐範経 藤原範経。鎌倉時代の貴族。
○この浦 現在の新潟県長岡市寺泊のこと。佐渡島へ渡る要港。
○南にかけける初雁 中国前漢の武帝蘇武が雁に手紙を託し都に届けたという故事を踏まえる。

問一 傍線部①「はるかにかへりみさせたまふ」の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。

- ① 大変懐かしく思いになる
② 何度も繰り返して御覧になる
③ 意外にも慕わしく思いになる
④ 遠くから振り返って御覧になる

問二 空欄 A と B を補うのに最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

- ① A のみ B にこそ
② A だに B にな
③ A ばかり B もや
④ A すら B をは

問三 傍線部②「御姿を写させて」の「せ」と文法的意味が同じものとして、最も適当なものを一つ選びなさい。

- ① 中將殿の上も、御物の怪にいみじく悩ませたまへば
② 物語の多く候ふなる、あるかざり見せたまへ
③ 穢の禪師といひける女に教へて舞はせけり
④ もみぢ葉の流れざりせば菟田川水の秋をば誰か知らまし

問四 傍線部③「鳥羽殿の御おまかげのかざり」とは何を指しているのですか。最も適当なものを一つ選びなさい。

- ① 鳥羽殿を取り囲んでいた東国武士の大軍の様子
② 鳥羽殿で会えなかった女房や臣下たちの顔
③ 鳥羽殿で出家した後に信実が描いた肖像画
④ 鳥羽殿で面会した母七条院の最後の姿

問五 傍線部④「別れの涙おさへがたし」とありますが、なぜ武士はこのような状態になったのですか。その理由を説明したものと、最も適当なものを一つ選びなさい。

- ① 旅の中で武士と親しくなった後鳥羽院が、彼らとの別れを惜しむ言葉をかけてくれたことに心動かされたから。
② これから後鳥羽院が粗末な船に乗り、荒々しい海の波を乗り越えて隠岐国に渡らなければならぬことに同情したから。
③ 後鳥羽院が旅の間ずっと都のことを恋しがっていたと聞いて、自分たちだけ都へ帰ることに心苦しさを覚えたから。
④ 後日、隠岐国の後鳥羽院から、旅の間親しく接してくれたことへの感謝の手紙が届けられたことに感動したから。

問六 傍線部⑤「いつしか南にかけける初雁も…御文付けさせたまふ」の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 26

- ① 順徳院は、秋になれば早くも都のある南の方角に向かって飛んでいく雁までも妬ましく思い、佐渡国から都に手紙を送る機会が少しでもあれば、手紙を書いて託した。
- ② 順徳院は、秋になれば常に都のある南の方角に向かって飛んでいく雁までも妬ましく思い、佐渡国から都に手紙を送る機会が少しでもあれば、手紙を書いて託した。
- ③ 順徳院は、秋になれば都のある南の方角に向かって飛んでいく雁のことを、早くも妬ましく思い、都から佐渡国へ定期的に届けられる物資とともに、自分あての手紙を書かせて送らせた。
- ④ 順徳院は、秋になれば都のある南の方角に向かって飛んでいく雁のことを、常に妬ましく思い、都から佐渡国へ定期的に届けられる物資とともに、自分あての手紙を書かせて送らせた。

問七 この文章の内容に合致するものを一つ選びなさい。

解答番号 27

- ① 後鳥羽院は、自分に残された命が短いため、出家しても十分に仏道修行できないだろうことを残念に思った。
- ② 後鳥羽院と七条院は、鳥羽殿で面会したが、たがいにただ泣くばかりで、涙で目が見えにくくなってしまった。
- ③ 隠岐国に向かう後鳥羽院を見送りにきた人々は、鎌倉幕府の恩恵を受けた者も受けていない者も、みな涙を流した。
- ④ 順徳院は、御輿などをかついできた男たちに、どうかふるさとに帰らないでほしいと頼み、涙を流した。

問八 「六代勝事記」は鎌倉時代に成立したと考えられていますが、鎌倉時代以前に成立した作品を一つ選びなさい。

解答番号 28

- ① 「玉勝間」
- ② 「風姿花伝」
- ③ 「落窪物語」
- ④ 「雨月物語」